重力に順応して立ち直る動作です。

研究雑話(113)

障害児教育・動作学誌上実習(31) 藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(11)

連続寝返り《ドングリ》にみる足腰からの立ち直り。

前回は、リズム運動・《両生類ハ イハイ》を例に、手足が自由に使え るにあたっての躯幹や腰部・骨盤の 役割についてお話しました。イモリ のようにお腹を着けてしまいますと、

膝這いのときのように、保護伸展に よる傾斜反応を利用できません。躯 幹自体における左右・筋緊張のしな やかさ、及び腰部・骨盤での傾斜や 捻転、これらが問われます。膝立ち

乳児における最初のそれは(6ヶ月)、 頸定による肩からの躯幹・立ち直り 動作です。リズム運動・《ドングリ》 は、頭の上で両手を合わせて、ドン しないで、腰部 グリのように連続して転がる課業で からの移動運動 す。肩からの立ち直りを利用せざる が開始されるの を得ない子どもは、両手を放してし は、《アヒル歩 まいます。図A、段階5で、両手を き》・段階 5 か 放さないで寝返ることができるよう らでした。手掌 になります。これは、《アヒル歩き》・ や足指をしっか 段階5、蹲踞位移動の持続と対応し り床に着けて前 ています(図B)。 進するためには、 《アヒル歩き》・ 段階6から7へ

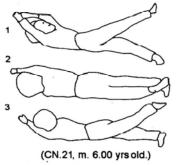
1歳3ヶ月、1歳8ヶ月、2歳2ヶ 月児にみる違い:図Aの段階1から 3。0歳期のときとの違いは、足腰 の移行が必要で からの寝返りです (**段階1**)。1歳 した。「母指球部 8ヶ月児では、さらに腰部の捻りを 支持からの腰部 利用(段階2)。2歳2ヶ月では、連 続は無理ですが、足腰からの寝返り 同期人こう説明 してきた段階の 模倣として完成(段階3)。

腰部・骨盤捻転による足指伸展回 旋:連続したスムーズな回旋のため には、身体が弓なりになり、足指で 床を滑らせ、伸展して回転を誘発す ることです(段階6から7)。腰部・ 骨盤では捻転が準備されています。 「緊張性腰反射からの躯幹・立ち直 り動作」、そう呼べる内容です。こ れは《アヒル歩き》・段階6から7 への移行と対応しています。《両生 類ハイハイ》での手掌、足指の利用 と同じですが、連続寝返り・《ドン グリ》の方が、2ヶ月程度の先行傾 向を読みとれます。傾斜反応と立ち 直り動作。姿勢反射における両者の 関係が反映されているものと考えて います。 (北海道教育大学教授)

《ドングリ》の発達段階。 (毎秒2コマ)

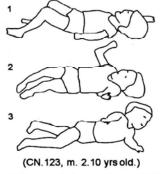


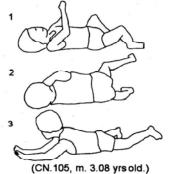
段階4. 膝もち上げ連結回旋



段階7.腰部捻転足指回旋

段階 5. 膝もち上げ腰部回旋





子どもたちです。

今回は、リズム

運動・《ドング

リ》に焦点をあ

て、連続寝返り

にみる立ち直り

動作の発達につ

いてお話したい

上肢・手掌を

合わせた連続寝

返り:寝返りは、

猫が二階から落

とされようと、

両足で着地する

ように、迷路や

頸、視覚など、

と思います。

段階 2. 腰部 寝返り回旋



(CN. 176, m. 1.03 yrs old.) (CN.171, f. 1.08 yrs old.) (CN.142, m. 2.02 yrs old.)

《アヒル歩き》との発達連関。_(幕井:1981) В.

